

崔 崑

旅 游 日 语

吉林大学出版社

旅游日语

江苏工业学院图书馆
藏书章

吉林大学出版社

旅 游 日 语
崔 崮

责任编辑、责任校对:刘子贵

封面设计:激尘

吉林大学出版社出版

吉林大学出版社发行

(长春市东中华路 37 号) 长春市永昌福利印刷厂印刷

开本:787×1092 毫米 1/32 1996 年 12 月第 1 版

印张:10.25

1996 年 12 月第 1 次印刷

字数:229 千字

印数:1—2500 册

ISBN 7-5601-1998-0/H·172

定价:15.00 元

前 言

本书原是作为吉林大学外国语学院日语系高年级的教材而编写的。随着我国社会主义市场经济的产生、发展、日臻完善，大学的学科建设也做了适当的调整。我校日语专业除保留语言、文学方向外，又增添了外贸、旅游方向。经过几年的教学实践，并收集毕业生以及用人单位的反馈信息，本书已几易其稿。特别是为这次付梓，从内容及结构上都做了较大的改动。

近年来，中国旅游业的发展突飞猛进。据专家预测，至少在下世纪到来之前将远远超过国内生产总值的增长速度。旅游业的经营范围十分广泛、包罗万象，可以概括为“衣、食、住、行、乐”五个字。本书就是以此为中心展开的。做好导游、陪同工作不仅要打好专业理论基础，还要有广博的科学文化知识。从这个意义上说，涉猎广泛是本书的主要特点。

本书除以日语专业高年级的学生为对象外，主要是面向社会。如：政府机关、企事业单位的外贸部门、旅游公司等。考虑读者的学习方便，全部用日语编写。对难读、难解的词语均附加了汉语注释。通过本书的学习，读者不但可以扩充词汇量、提高自身的日语水平，而且还可以学到中国历史、地理、文化及旅游方面的知识，可谓一举两得。这是本书的又一特点。

从内容上看，本书由十八章构成。

第一章介绍了旅游业的基础知识及中国旅游业。

第二、三章简略回顾了中国的地理、历史及文化。

第四、五、六、七章介绍了中国的饮食、风物特产及习俗。

第八章以数字的形式精炼了中国旅游业的精华。

第九章、如何当好导游。

第十~十八章以地区、主要城市为单位，介绍各地的旅游景点、宾馆、饭店、特产等。

在本书的编写和出版过程中曾得到日本爱知县公立高等学校山本诚先生、吉林大学日语专家井上铃子女士、长春市海外旅游公司王蔓菲副总经理、吉林大学出版社王瑞金副编审的大力协助，在此一并表示衷心的感谢。

最后期望本书能成为广大读者的良师益友。

崔 崑

1996年6月于吉林大学

目 录

第一章 中国旅行事情	1
一 旅行、旅行者、旅行の種類	1
二 旅行業の特徴	2
三 旅行資源	4
四 中国旅行業のたどり	5
五 中国旅行業の現状	9
第二章 中国ノート	16
一 地理、地勢、気候	16
二 行政区画、人口、民族	17
第三章 中国略史と文化	19
第四章 中国料理と食文化	27
一 四大系統料理	27
二 山東料理	28
三 江蘇・浙江料理	30
四 四川料理	31
五 広東料理	32
六 北京の宮廷料理	33
第五章 メニューの読み方	36
一 好みの料理でコースを	36
二 料理名の読み方	37
第六章 中国の酒、中国の茶	40
一 中国の酒	40
二 中国の茶	42

第七章	中国のみやげ	46
第八章	数字と中国旅行	50
第九章	もし、私がガイドになったら	62
一	旅行日程表を受け取ってからの準備	62
二	ガイドの準備	63
三	迎える作業	63
四	ガイドの作業	64
五	ホテル内の作業	65
六	見学、遊覧について	66
第十章	東北の旅	68
一	東北オリエンテーション	68
二	長春	71
三	吉林	73
四	長白山	75
五	ハルピン	76
六	齊齊哈爾	79
七	瀋陽	81
八	大連	84
九	撫順	88
十	鞍山	88
十一	丹東	89
第十一章	北京の旅	91
一	北京オリエンテーション	91
二	主な見どころ	94
三	北京の名菜館めぐり	104
四	北京の繁華街を歩く	106

五	北京のフリータイム	108
六	北京のホテル	111
第十二章 華北の旅		115
一	華北オリエンテーション	115
二	天津	118
三	承德	123
四	秦皇島	125
五	済南	126
六	泰山	128
七	曲阜	131
八	青島	133
九	洛陽	135
十	鄭州	140
十一	開封	142
十二	登封	144
十三	太原	145
十四	大同	148
十五	呼和浩特	150
十六	包頭	152
十七	二連浩特	153
第十三章 上海の旅		155
一	上海オリエンテーション	155
二	主な見どころ	158
三	上海の名菜館めぐり	163
四	上海の繁華街を歩く	165
五	上海フリータイム	168
六	上海のみやげ	170

七	上海の主なホテル	171
第十四章	華東・華中の旅	174
一	華東・華中オリエンテーション	174
二	南京	176
三	揚州	182
四	鎮江	185
五	無錫	187
六	蘇州	190
七	杭州	196
八	紹興	201
九	寧波	202
十	黄山	204
十一	合肥	207
十二	南昌	209
十三	景德鎮	211
十四	廬山	213
十五	武漢	215
十六	長沙	218
十七	岳陽	220
十八	南岳	222
第十五章	広州の旅	225
一	広州オリエンテーション	225
二	主な見どころ	227
三	近郊の町	231
四	広州の名菜館めぐり	232
五	広州のホテル	234
六	広州のみやげ	235

七	中山	236
八	深圳	237
九	珠海	239
第十六章 華南の旅		241
一	華南オリエンテーション	241
二	桂林	243
三	柳州	248
四	南寧	250
五	福州	252
六	泉州	254
七	廈門	256
八	海南島——海口	258
九	三亜	260
第十七章 西南の旅		263
一	西南オリエンテーション	263
二	昆明	266
三	西双版纳	269
四	大理	271
五	成都	272
六	峨眉山	277
七	重慶	279
八	長江三峡下り	281
九	貴陽	283
十	黄果樹	286
十一	拉薩	287
第十八章 シルクロードの旅		292
一	シルクロードオリエンテーション	292

二	西安	294
三	蘭州	302
四	銀川	304
五	酒泉	305
六	敦煌	307
七	烏魯木齊	310
八	吐魯番	311
九	喀什	313
十	西寧	315
十一	青海湖	316

第一章 中国旅行事情

一、旅行、旅行者、旅行の種類

旅行 徒歩または交通機関によって他の地方に行くこと（「広辞苑」より）。旅行はある社会経済条件のもとで生まれる社会経済現象である。それはお金を儲ける行為ではなく、見物、療養、知識を求めることなどを目的とする非定住の移動およびそれに係わるすべての現象である（「DZK導游基礎知識」より）。

旅行者 行っている所の景色を楽しむため、居住地を離れてよその地へ移動する人は旅行者という。国際旅行者は他国へ行って、少なくとも24時間以上滞在する観光客である（24時間以内滞在する人は「游覧者」——見物人という）（1967年国連統計委員会より）。

また中国国家统计局は本国の事情を元にして国際旅行者を下記通り規定している。「旅行者は我が国へ来て見学、見物、親類訪問、友人訪問、休養、視察および貿易、スポーツ、宗教活動を行ったり、会議に参加したりする外国人、華僑、ホンコン、マカオの同胞である」。

旅行者統計 今、世界各国が旅行者数に対する統計の方法は様々であるが大抵二つに分けられる。一つは税関経由の入国人数を基準にすること。例えばスペイン、中国。い

ま一つはホテルでお客さんを接待する数字を基準にすること。例えばフランス、英国、米国。

旅行の種類 1. 観光の地域と範囲によって国内旅行と国際旅行に分けられる。国内旅行は地域的旅行と全国的旅行の2種類ある。国際旅行は出国旅行と入国旅行を含んでいる。2. 観光の対象と目的によって見物、友人訪問、文化遺産見学、登山、海水浴、療養、見学旅行、シンポジウム、ビジネス、新婚旅行などのコースに分けられる。3. 交通道具によって徒歩、騎馬、自転車、オートバイ、車、列車、船、飛行機などいろいろある。4. ゲストの消費基準によってグランドクラス、ミドルクラス、エコノミークラスに分けられる。5. 旅行の組織方式によって団体旅行と個人旅行もある。6. 旅行資源の性質によって海、温泉、川、湖、山間地帯、都会など様々な形が生じる。7. また人の嗜好に合うように特別な旅行コースも考えられた。例えば、シルクロード、三国の道、ラストエンペラー、ハルピン雪祭り、孔子の故郷などである。

二、旅行業の特徴

旅行業は文化的経済事業で、サービス業の一つである。その中にはいろいろな特徴がある。

1. **総合性** 旅行業は人間が生存のニーズに満足するための企業ではない。それは人間の食べる、泊まる、移動、観光、買物、遊ぶなどの活動を結びつけて、旅行者に優れたサービスを提供する総合的な部門である。旅行の活動を展開している場合、多くの分野と部門に関わるのである。

例えば航空、鉄道、バス、タクシー、船などの交通会社、ホテル、商店、食堂、喫茶店などのサービス業、電信、電話、FAXなどの通信機関および製造業、学校、役所、科学研究機関などである。

2. **涉外性** 国際旅行でもてなす対象は国籍の違う外国旅行者或いはホンコン、マカオ、台湾同胞および海外華僑である。それで、国際旅行は涉外性を持っている。国際旅行を発展させるのは中国人民と世界各国人民との相互理解を深め、かつ友好を促進することができる。

3. **特殊性** 他の部門に比べて、旅行業は自分なりの内容を持っている。例えば、旅行者に食事、宿泊、移動、案内、ガイド、通訳などサービスを提供しなければならない。旅行者が自分の旅行活動を完成している過程中、旅行業が提供する各種の収入は旅行業の全部経済収入の中で相当な比重を占めている。

4. **系統性と依頼性** この特質は国際旅行団の活動を手配する中で特に目立つ。外国人の入国から国内旅行を終え、出国するまで航空会社、鉄道、観光バス、ホテル、レストラン、劇団、観光地などの間で斡旋したり、手配しなければならない。また時間的には食事、宿泊、移動、見物、買物などを合わせて考慮し、詳しいスケジュールを組まなければならない。また、いざという時にその悪い影響を最低限に減らすべきである。

5. **不安定性** 旅行業の発展は世界経済の成長、低迷に大きく左右されているのみならず旅行先の国（地域）と接待国（地域）の政治、経済、社会変化の影響を受けている。ある国、ある地域の旅行業の発展はいつも上がるわけ

ではなく、外来の要素によって変わるのである。

三、旅行資源

旅行者が見学、観光、娯楽、休憩、飲食、研修、観賞、療養などの旅行活動を行なう場合、供されるすべての物質条件を旅行資源という。旅行資源には多種多様のものが網羅されているが、大抵自然資源と人文資源の二つに分けられる。

1. **自然資源** 自然に恵まれて、旅行者を引きつける自然遺産である。例えば、山、川、湖、泉、滝、洞窟、森林、草原、珍しい動物、植物などである。

2. **人文資源** 人文資源も範囲が広く、内容が豊富である。それは人類社会、文化、スポーツ、民族、民俗、庭園、古い建物、古い墓、古代の遺跡、現代建築の中で歴史、科学、芸術の上に価値があり、研究、観賞、娯楽に供することができるものである。

自然資源と人文資源とは相互に区別すると同時に切っても切れない関係をしている。中国の素晴らしい山河には大量の人文資源がよく分布しているのである。中国は5000年も悠久の歴史を持っているだけあって、多種多様の名勝旧跡が全国すみずみにまで及んでいる。1961年3月に始めて、1982年、1987年二回にわたって國務院から国家クラスの文化財として500カ所指定された。また、省クラスの文化財保護部門は3400カ所ある。その中に廃墟、遺跡、宮殿、城、お寺、石碑、石窟、陵、古い橋、塔、南北庭園、水利工事、革命の聖地などを含んでいる。

1982年と1986年に相次ぎ62カ所の歴史文化名城が国（国務院）から指定された。そのほかに全国各地に歴史、革命、民俗博物館、工、農業展覽館などが建てられた。

1982年11月「国家重点風景名勝区」が44カ所国（国務院）によって公布された。1987年14の省で省クラスの風景名勝地が107カ所決められた。

1988年8月国務院がまた40カ所の「国家重点風景名勝区」を定めた。

四、中国旅行業のたどり

中国近代旅行業は20世紀20年代に始まる。その前にイギリス、アメリカ人が経営した「通済隆」「運通」などの旅行社があったが、それは外国人が中国を旅行するための外国人むけのものでしかなかった。始めて中国人が経営した旅行企業は1923年8月上海商業銀行に設立された旅行部である。それは1927年に「中国旅行社」に改められ、全国15の都市に支店を設置し、旅行招待所も創立された。それからニューヨーク、ロンドン、ハノイにも支店を設け、国際旅行市場に進出し、「旅行家雑誌」も出版された。ただし、新中国が生まれるまで、中国の旅行業は非常に立ち遅れていた。新中国の旅行業は大体四つの段階を辿ってきた。

1. 創業時期（1949年～1955年）

海外の華僑が入国、国内華僑の家族が出国するニーズに応じて「華僑服務社」が生まれた。1949年11月、まずアモイに国营華僑服務社が誕生した。それから福建、広東省

沿海地域また全国各地にも広がった。

元総理大臣周恩来の提言で、1953年「中国国際旅行社籌備委員会」が結成され、1954年4月15日「中国国際旅行社総社」が正式に創立された。「国旅」が成立する当初、主な業務は国際鉄道と国内鉄道、バスなどのチケットを販売するだけで海外私費旅行者の取扱いなどほとんどやらなかった。

2. 開拓時期（1956年～1966年）

1954年ジュネーブ会議、1955年バンドン会議後、中国の国際地位がかつてなく上がったので、中国と国交を樹立した国は倍以上増えた。それに伴って、中国を訪問する外国人が急速に増え、政府代表団はもちろん、社会団体、特に個人私費で我が国を旅行する人は増加する一方であった。1956年、我が国は18国の50カ所の旅行社と業務往來を始めた。1958年6649人、1959年8172人の海外の私費個人旅行者を迎えた。

1956年～1965年、華僑旅行服務社は世界80国と地域から来た華僑20万人、ホンコン同胞100万人を接待した。

1964年7月22日全国第三期人民代表大会常務委員会で「中国旅行游覽事業管理局」は国务院の管理部門として審査し、採択された。それがきっかけになって、我が国の旅行業は未曾有の新しい時期を迎えている。旅行者の市場も日増しに拡大し、団体にせよ、個人にせよ中国を旅行した客も飛躍的に増加し、経済効益も大幅に高まり、旅行部門は外貨を儲ける会社としてスタートした。

1965年我が国が接待した外国旅行者は21,235人、団体12,877、個人8,358にも達した。それは10年間の最高記